

## ガラス産業連合会



マグ・イゾベル株式会社  
代表取締役社長

フランソワ・ザビエ リエナール

**François-Xavier Lienhart**

ニューガラス・フォーラムの機関誌“NEW GLASS”への投稿依頼が参りました。非常に名誉な事と思います、これも昨年度ガラス産業連合会（GIC）の副会長を、今年度硝子繊維協会（GFA）の会長の2期目を務めることによるものと理解しています。

この業界に関係して約3年が経ちましたが、まだまだ自業界以外の事は理解できていないのが実情ですが、この3年間で感じた事を書いてみます。

ヨーロッパには、欧州ガラス産業常設委員会 CPIV（Comite Permanent des Industries du Verre Europeennes）があり、欧州板硝子協会（GEPVP）、欧州家具ガラス工業会（EDG）、欧州容器ガラス連盟（FEVE）、欧州ガラス繊維工業会（ADFE、硝子長繊維）の構成メンバーからなり、REACHなどの環境・安全問題、他に対応しています。

ガラス産業連合会（GIC）は板硝子協会、電気硝子協会、ニューガラス・フォーラム、日本ガラスびん協会、硝子製品工業会、硝子繊維協会の6団体からなり、より広い団体が緊密に連携し、同じベクトルで、技術戦略調査特別部会、プロセス・材料技術部会、環境技術部会、環境広報部会の4つの部会において、幅広く業界の発展に取り組んでいます。これは素晴らしい事だと思います。情報・技術の共有化による技術力アップが図れます、また団体の規模が大きい事でロビイング活動の成果も出やすくなり、業界の発展につながる事が出来ます。

GFAでは、ヨーロッパ断熱材製造業者協会（European Insulation Manufacturers Association、CPIVに加入していない）と北米（North America Insulation Manufacturers Association、オブザーバーの立場）と、毎年日本と欧州で交互に環境・安全・健康問題について打ち合わせ・情報交換を行っています。GFAにとって情報・技術やロビイングに関しては、GICが云わば縦糸、EURIMAが横糸として、重要な存在です。

一方、名前の通りニューガラス・フォーラムはニューガラスの総帥です、現在から将来

にわたるガラスに関わる技術の方向性を記載した「ガラス産業技術戦略2030年」も、GICの技術戦略調査特別部会の事務局としてとりまとめをして頂いています。平成21年9月にキックオフされたナショナルプロジェクト「革新溶融プロセス」PJをニューガラス・フォーラムが推進してもらっていますが、画期的な成果が得られる事を期待しています。

また、今年度が最終年である「三次元光デバイス及び次世代光波制御」PJにおいても、昨年度ホログラムによる光結合器をガラス内部に世界で初めて形成するという、快挙を成し遂げられています。今後ますますの発展と活躍が期待されます。

ニューガラス・フォーラムには、日本のガラス産業の技術をリードし、GICが持っている技術のポテンシャルを高め、革新的技術の創造とその応用により、世界のGIC世界のニューガラス・フォーラムになることを、期待してやみません。